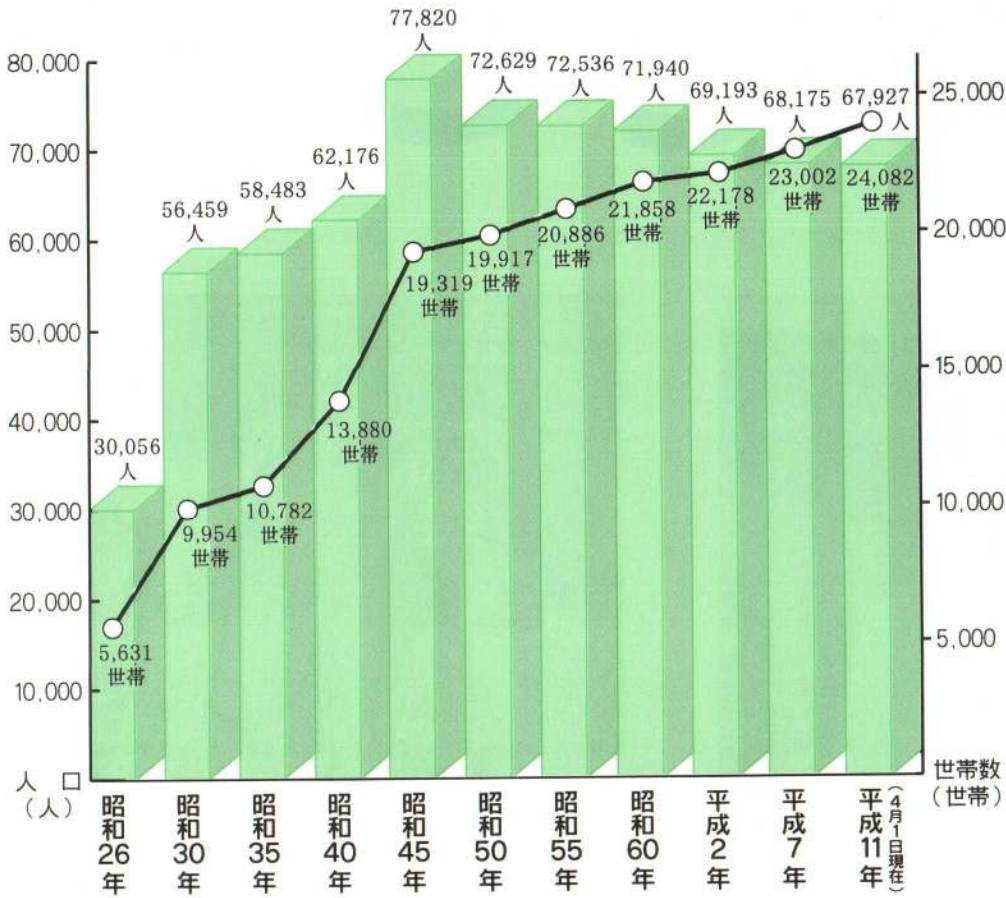


# グラフ

## でみる 大館

### ①人口と世帯数

大館をグラフからみてみることにしました。グラフから大館の歴史や意外な一面を読み取ることができるかもしれません。



大館は、昭和26年に大館町と釈迦内村が合併して『大館市』となりました。そのときの人口は約30,000人。昭和30年の長木、上川沿、下川沿、二井田、真中の5つの村と十二所町との合併により約56,000人に、昭和42年の花矢町との合併でピークの78,000人台になりました。その後は、鉱山の閉山などによる人口の減少を経て、現在にいたっています。

世帯数も2度の合併で大きく増えました。ただ、その後は人口の減少とは関係なく、年々わずかながら増加しています。これは、核家族化が進んでいることや大学の開学などによるものです。

皆さんは普段飲んでいる水道水の安全性について考えたことがあるでしょうか。大館市は豊かな自然に囲まれ、比較的きれいな水に恵まれているといわれています。水道水に関しても、安全な水質管理には十分気をつけていますが、トラブルは絶対にはいえません。そこで今年度から「市民水道モニター制度」を始めました。この制度に協力してくださるモニターは、市内にある五つの配水区（長根山三か所、獅子ヶ森、二ツ山）から二人ずつ、合わせて十人のかたにお願いしました。そして、家事などで一日のうち水を使う機会が多い女性に限らせていただきました。

水道水の水質は、浄水場から家庭をつなぐ配水管路の距離や標高によって変わってきます。また、その日の温度や季節などによっても異なりますので、一年を通じて同じ水質を保つことは不可能なわけですが、モニターによる調査は、浄水場からの距離によって水質にどのような違いがあるかを調べるとともに、水質が基準に適合しているかを確認していただくものです。測定方法は、測定器で水道水中の残留塩素やPH（ペーハー）を測り、目で水の色や濁り具合を見るもので、毎日行っていました。

今日、水道水は量より質といわれる時代になり、水の安全性に対する関心が高まっています。また、水は限りある資源との認識に変わってきています。このモニター制度の制定を機に、モニターのかたに限らず市民の皆さんにも、例えば、水質をはじめとして、水道料金、水の味、蛇口から出る水の水圧の具合、水道工事についてなど、水道に関するいろいろな意見をどんどん挙げていただきたいと思います。市では、皆さんから出された意見を受けて、さらに安全な水道事業の運営を行い、安定した水道水の供給に努めます。



安全な水を家庭に  
市民水道モニター

市長リポート

No.184

小畑 元